TOPICS

平成１７年七戸研究施設一般公開（七戸町産業文化健康祭り）報告

11月6日、七戸町産業文化健康祭りは旧天間林村の中央公園体育館で行われました。当研究施設も展示ブースをいただき研究成果のパネル展示、BSE及び鳥インフルエンザに関するアンケート等を行いました。当所のブースへの来訪者は400名でした。アンケート結果（回答者112名）の内訳は次の通りでした。

・BSEをご存じですか？　はい　92人
・牛肉を買うときはBSEを気にしますか？　はい　73人
・BSEを詳しく知りたいですか？　はい　90人
・鳥インフルエンザはご存じですか？　はい　111人
・鳥インフルエンザを詳しく知りたいですか？　はい　94人
・動物衛生研究所の名前はご存じでしたか？　はい　39人

余談ではありますが、作家の司馬遼太郎は著書「漱石など」の中で、「『福翁自伝』は定評通り自伝文学の白眉と言っていいが…自分とその周囲の人々の心の動き、進退についての人間くさいおかしさは、新時代らしい文章の書き手だった福沢でさえ、自分が手作りした文章ではそれらを表現しにくく、口述に頼った。」と述べています。私の勘違いかもしれませんが、それをヒントに幼児期の見聞等から、方言で一般公開でのアンケートをとる様子を描写してみました。なお、ご紹介する方言は様々な誤解を避ける意味で、戦前戦後の盛岡周辺の農村の方言です。

ワラス（子供）連れだアッパ（母さん）がいっぺ（たくさん）来たス。ワラスだば、「おらァ風船ほしい、買ってけろ」だの、「兎ッコ抱いてみてえ、いがべや（いいだろう）」「なんじょしても（どうしても）顕微鏡サ見てえ」ず（という）きかねえのス。おらど（自分達）は「わがねぇてば（ダメだ）」と言うアッパさ声かけて、「申し訳ながんべぇども、アンケート書いでくれるんだば、風船ッコただでくれてやるから、書いてもらえねえスか」とアンケートば書いてもらったのス。アッパは、ふでえ（ひどい）ことさ使われねえが心配したでがんス。ただ立ってるのも楽でながんすが、なんぼか嫌（や）んたもんだども、書いてもらったでがんス。ほんで（それから）、おらほの娘ゴ（ここでは研修生の意）は、ほんにえぐ（良く）稼しぇいだもんでがんス。

方言は日常生活に必要不可欠な口述語ばかりですから、今のように語彙は多くありません。文章修辞を廃した口述の善し悪しなど様々に考える一日でもありました。

（七戸研究施設広報委員　及川　完治）

研修生も応援

動衛研ニュース No.22　編集・発行　（独）農業・生物系特定産業技術研究機構　動物衛生研究所企画調整部
平成18年2月15日発行　〒305-0856　茨城県つくば市観音台3-1-5　Tel: 029-838-7708　Fax: 029-838-7907
http://niah.naro.affrc.go.jp/